

令和4年度 第2回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日時 令和4年8月29日（月）10:00
2. 出席状況 委員10名（川染会長、明吉委員、遠藤委員、小須田委員、小林心委員、小林三夫委員、古谷田委員、泉水委員、橋本委員、服部委員）
事務局5名（文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興係3名）
3. 傍聴人 傍聴人なし
4. 議題
 - 1 開会
 - 2 審議会の役割について
 - 3 会長、職務代理の選出
 - 4 文化芸術の振興のための表彰事案について
 - 5 （1）生涯学習振興補助金の選考結果について
（2）文化芸術振興基本計画[第4期]の策定に向けて
 - 6 その他
 - 7 閉会
5. 会議資料
 - 資料1-1 大和市文化芸術振興審議会について
 - 資料1-2 審議会の公開及び会議録の公表等について
 - 資料2 令和4年度文化芸術顕彰候補者（案）について
 - 資料3 生涯学習振興補助金（令和5年度事業分）審査結果について
 - 資料4 文化芸術振興基本計画〔第4期〕の策定に向けて

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 審議会の役割について
 - 市から、審議会の役割及び「文化芸術振興基本計画」について説明し、委員名の公表、会議の公開、傍聴などについて確認した。
 - 会議録については、要点を取りまとめ、公開していくことが確認された。
- 3 会長、職務代理者の選出
 - 委員の互選により、会長に川染委員が選出され、職務代理者に小林三夫委員が指名された。
- 4 審議事項
 - (1) 文化芸術の振興のための表彰事案について
 - 市から、「令和4年度大和市文化芸術顕彰（案）について」を説明。
 - 大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開 —
 - 各候補者、推薦内容と同意見で受賞にふさわしいとの意見が集約された。
 - 文化芸術顕彰について、今後も顕彰受賞者の周知や顕彰のPR等を積極的に行うよう、各委員から意見があった。
- 5 (1) 生涯学習振興補助金（令和5年度事業分）審査結果について
 - 市から、「生涯学習振興補助金の選考結果について」説明。
 - 委員

大和茶道会の能楽とのコラボ企画はとてもよい。外国人市民が日本の伝統文化に親しむことができる内容が企画されているようだが、具体的にどのように外国人に働きかけるのか。多言語を用いた広報活動は行わないのか。外国人と接する機会があるが、言語の壁を感じている。

やまと国際オペラ協会は、音楽を通じて国際交流や多文化理解を図る理念やコンセプトがあるようだが、具体的に聞きたい。

○事務局

大和茶道会については、次年度に事業を実施するため、具体的な企画はこれから計画するが、外国人市民に限らず広く市民に伝統文化を伝えたいという思いがある。招待者枠を設け、日本の伝統文化に親しむことができるように企画している。

やまと国際オペラ協会については、ソリストに外国人の方が何名か在籍しており、国際色豊かな団体として活動している。ウクライナ人のソリストが在籍しているため、先日の公演では、ウクライナ出身の方を招待していた。オペラを通して、国際交流を進めたいという基本的な考えをもっている。

○委員

事業で不足する部分を補うのが補助金だ。今回申請のあった団体の大変だと思った点がある。

演劇やまと塾は、財団の呼びかけにより立ち上げた団体であり、子どもたちの表現力の向上や演劇に興味を抱くきっかけを作っている重要な団体である。その団員の数が減っており、大変苦労されている。子どもたちの文化的な活動が少なくなっている現在の状況もあり、子どもたちの情操教育のためにも、活動を継続してほしい。

大和茶道会は、来年で創立50周年を迎える。50年間団体活動を継続してきた力のある団体である。その団体が 茶道と能のように、文化団体同士が手を取りあって事業に取り組むということの評価したい。他のジャンルの団体が手を取り合うことで、大和市の文化の醸成に繋がる。大和市は外国人市民が多い。特に骨董市のように、人が集まるイベントは、多くの外国人市民も参加する。そのように、人が集まる場所でイベントを実施することで、外国人市民が親しむことができると思い評価した。

やまと国際オペラ協会は、市民が100人以上参加している団体で、毎年芸術文化ホールの特ホールで盛大にイベントを開催している。それだけの、能力がある団体で、もっと発展して大和市に質の高い文化を提供してほしい。若者が誇りを持てるようなイベントをやってほしいと思う。

○委員

生涯学習振興補助金の制度について教えてほしい。基金の在り高はどのくらいあるか。3団体とも要望金額が25万円である。オペラ協会と演劇やまと塾の総事業額には大きな差があるにも関わらず、要望額金と内定金額は25万円になっている。要望金額の上限はどうなっているのか。オペラ協会は過去に申請したことがあったと記憶するが、以前申請した団体でも申請はできるのか。何か条件があるのか。

○事務局

基金の残高は、約1,700万円。上限額については、令和4年度実施分から見直しを行った。以前は1団体当たり上限100万円がかつ、年度あたりの補助総額も100万円としていた。年度によって補助金が異なってしまう課題があった。そこで年度による不公平をなくすため、1団体あたりの上限額を25万円に改定した。補助金は4年に1回申請することができる。交付を受けてから3年間はあける必要がある。オペラ協会については、令和3年度にドン・カルロを実施する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により中止になった。オペラ協会は補助金の交付を受けていないので、今年度再度、申請した。

○委員

オペラは経費がかかるので、25万円は少ないように感じた。演劇やまと塾は、やまと子どもミュージカルと同じ年に立ち上がった団体であり、地域に根差した活動を続けている。今後も頑張っ
てほしい。

○委員

これまでに様々な議論があり、上限額が25万円になった。金額を変更するにも、活動団体からの
声を参考にして変更した方がよい。改定して3年しか経っていないので、すぐに変更することは
ないが、市の財政状況を見ながら、可能であればもう少し上限額を上げるとよい。

○委員

市は、実施計画に基づいて財政課から補助金が分配される。申請団体の企画内容を精査し、上限
額を上げたいのであれば、文化振興課が財政課に予算要求することを検討する必要がある。市の財
政状況に余裕があるのであれば、上限額の変更の可能性が出てくると思う。事業の内容によっては、
一律25万円は厳しいのではないかと。例えば、一般的にオペラの入場料は、6,000円かかる。大和
茶道会の企画は、入場料がかからない。大和茶道会は会場費と事業費のみ。入場料を設定している
企画と、そうでない企画内容の団体がある。各団体の実施内容や計画を精査すると、一律に25万
円が妥当ではない場合がある。市内の数ある文化芸術団体に補助金制度があることを周知できてい
るのか。補助金も市民の税金で行っているのだから、慎重に審査すべき。シリウスの会場費は高いの
で、それだけでも補助できると、団体はありがたいと思う。根本的に事業内容を分析して補助して
いけるとよい。

○委員

札幌市のホールの事業に選定されたことがある。その際は広報費と会場費を負担してくれた。
会場費を負担してもらっただけでも助かった記憶がある。

5 (2) 文化芸術振興基本計画[第4期]の策定に向けてについて

○市から、「文化芸術振興基本計画〔第4期〕の策定に向けてについて」説明。

○委員

今後の会議は対面で行うか。開催場所はどこか

○事務局

対面で行う。開催場所については、シリウスでの開催を予定している。

6 その他

○市から、「文化創造拠点等運営審議会の委員選出」について説明。

今年度から、審議会を代表して小須田委員に出席いただくことで承認。

○市から、次回の文化芸術振興審議会開催日程について説明。

○市から、今年度実施の文化振興事業について説明。

○委員

会議資料を早めに送ってほしい。

○委員

YAMATO ART100を毎年楽しみしている。いつ、どこで、どんなイベントが開催しているのか
記載されており、大和市の文化芸術を知る良いきっかけになる。

○委員

YAMATO ART100を、広報やまとに併せて配布できるとよい。

7 閉会